

決算説明資料

2023年3月期第3四半期

2023年2月8日
白銅株式会社

目次

- 1. 決算内容 2023年3月期第3四半期 P 2
- 2. 業績予想 2023年3月期 P16
- 3. 中期経営計画達成に向けた取り組み P19

決算内容

2023年3月期第3四半期

決算ハイライト

売上高

47,379百万円
(前年同四半期比+ 17.1 %)

売上総利益

7,874百万円
(前年同四半期比+ 4.0 %)

経常利益

3,369百万円
(前年同四半期比+ 4.8 %)

2023年3月期第3四半期サマリー

売上高

- 2023年3月期第3四半期は過去最高額を達成
- 前年同四半期比アルミニウム・ステンレスを中心に全品種が増加
- 主力の半導体製造装置業界で在庫調整局面が継続

売上総利益

- 売上高増加により前年同四半期比4.0%増加、2023年3月期第3四半期で過去最高額を達成

経常利益

- 2023年3月期第3四半期で過去最高額を達成
- 経常利益は、受取配当金101百万円等により前年同四半期比153百万円増加
- 売上高販管費比率が前年同四半期比△1.1%減少したことで増益に寄与

連結損益計算書（PL）サマリー

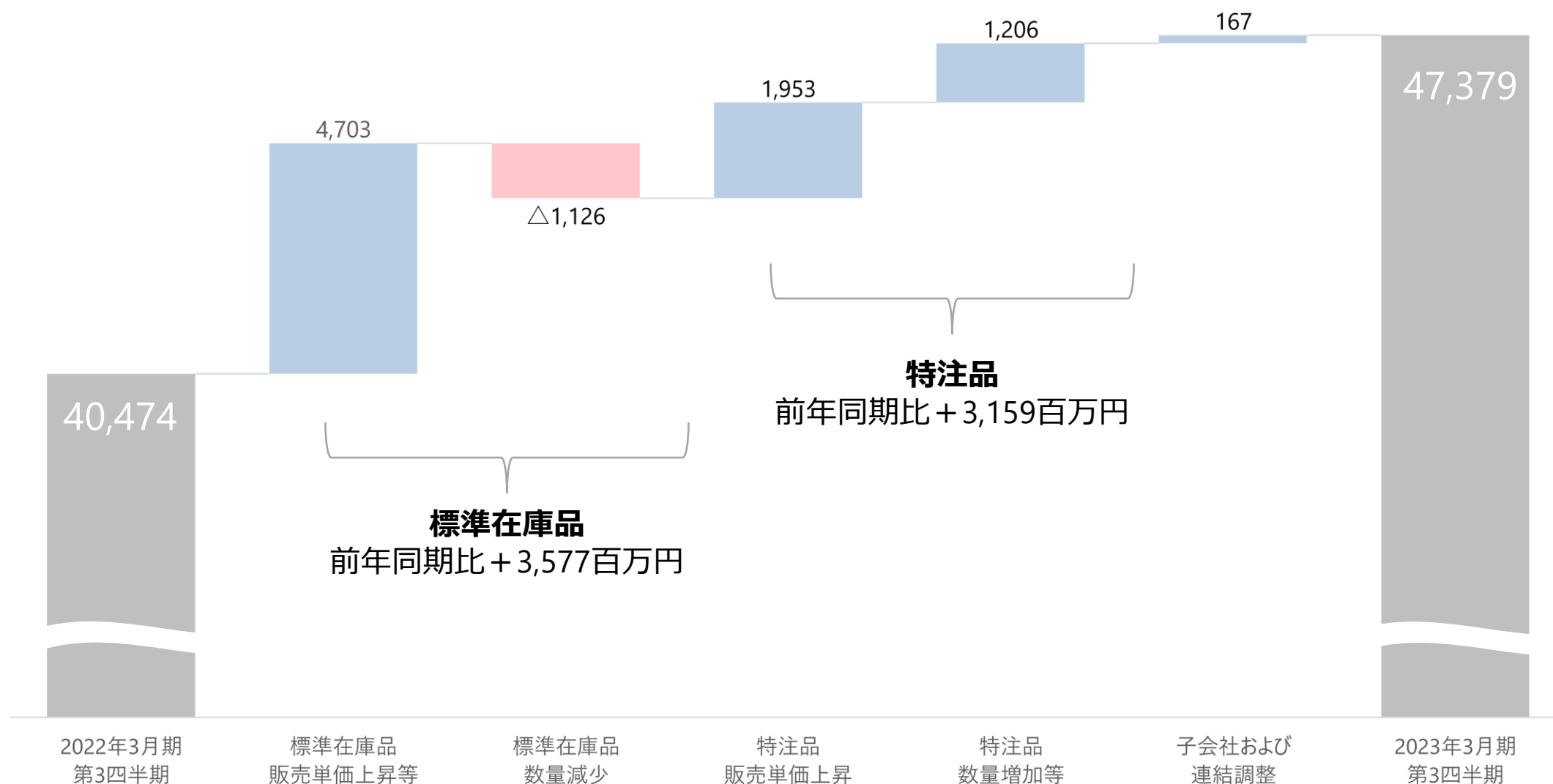
単位：百万円

	2022年3月期 第3四半期	売上高比	2023年3月期 第3四半期	売上高比	前年同四半期 増減率
売上高	40,474	-	47,379	-	17.1%
標準在庫品	26,066	64.4%	29,306	61.9%	12.4%
特注品	14,407	35.6%	18,072	38.1%	25.4%
売上総利益	7,570	18.7%	7,874	16.6%	4.0%
営業利益	3,130	7.7%	3,166	6.7%	1.1%
経常利益	3,216	7.9%	3,369	7.1%	4.8%
棚卸資産影響額（△は損）	422	-	451	-	6.9%
為替差損益（△は損）	7	-	32	-	341.3%
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	2,787	6.9%	2,886	6.1%	3.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,187	5.4%	2,289	4.8%	4.6%

売上高の前年同四半期差異要因

売上高の増加要因は、販売単価の上昇、特注品数量の増加等

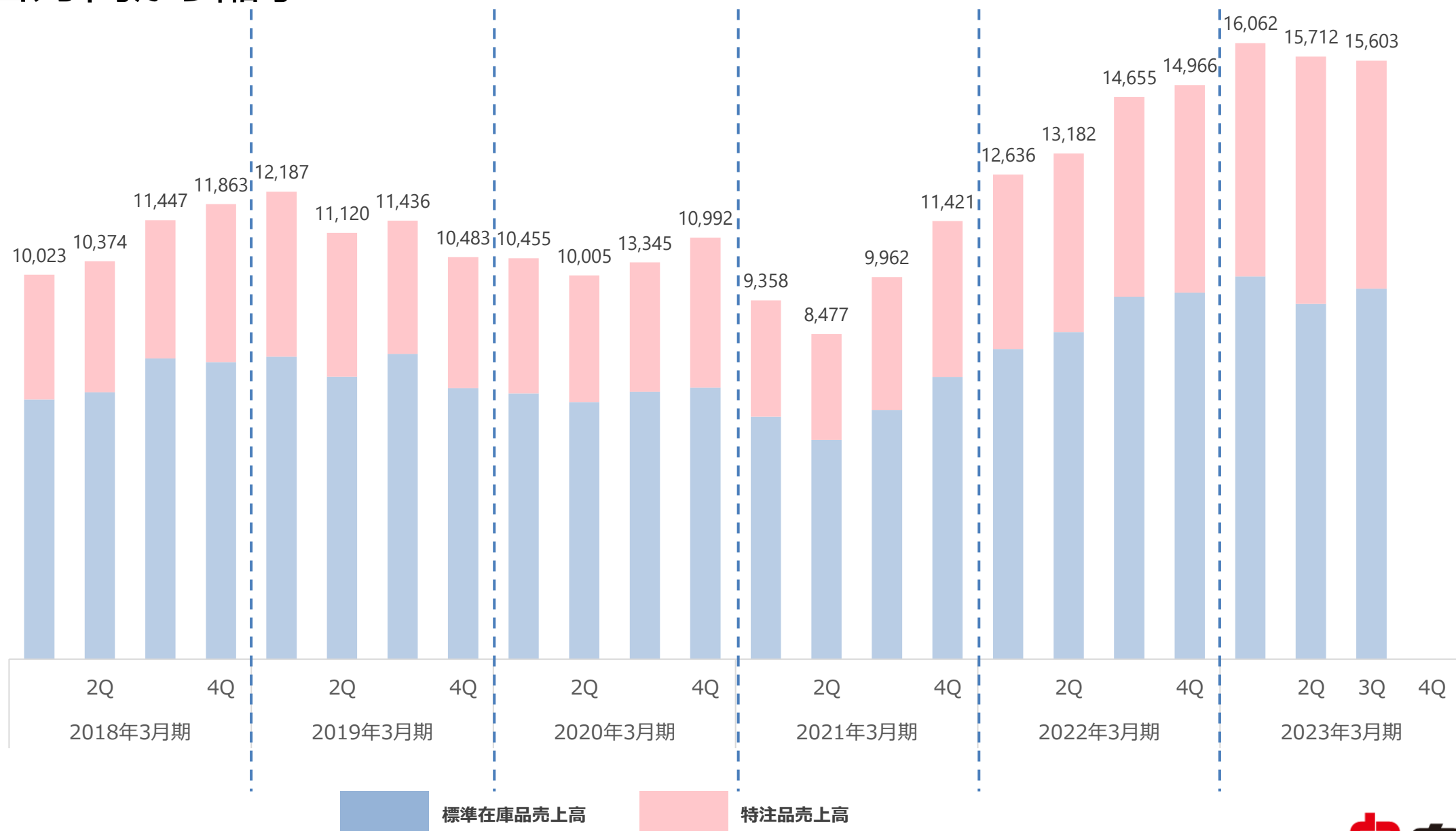
(単位 百万円)



売上高の四半期毎推移

2023年3月期3Q期間の売上高は、2Q期間比で△108百万円

3Q期間の売上高は販売単価上昇により当年度1Q-2Qの減少幅△350百万円から縮小
(単位 百万円)



品種別売上高

アルミニウムやステンレスを中心に前年3Q期間比で増加

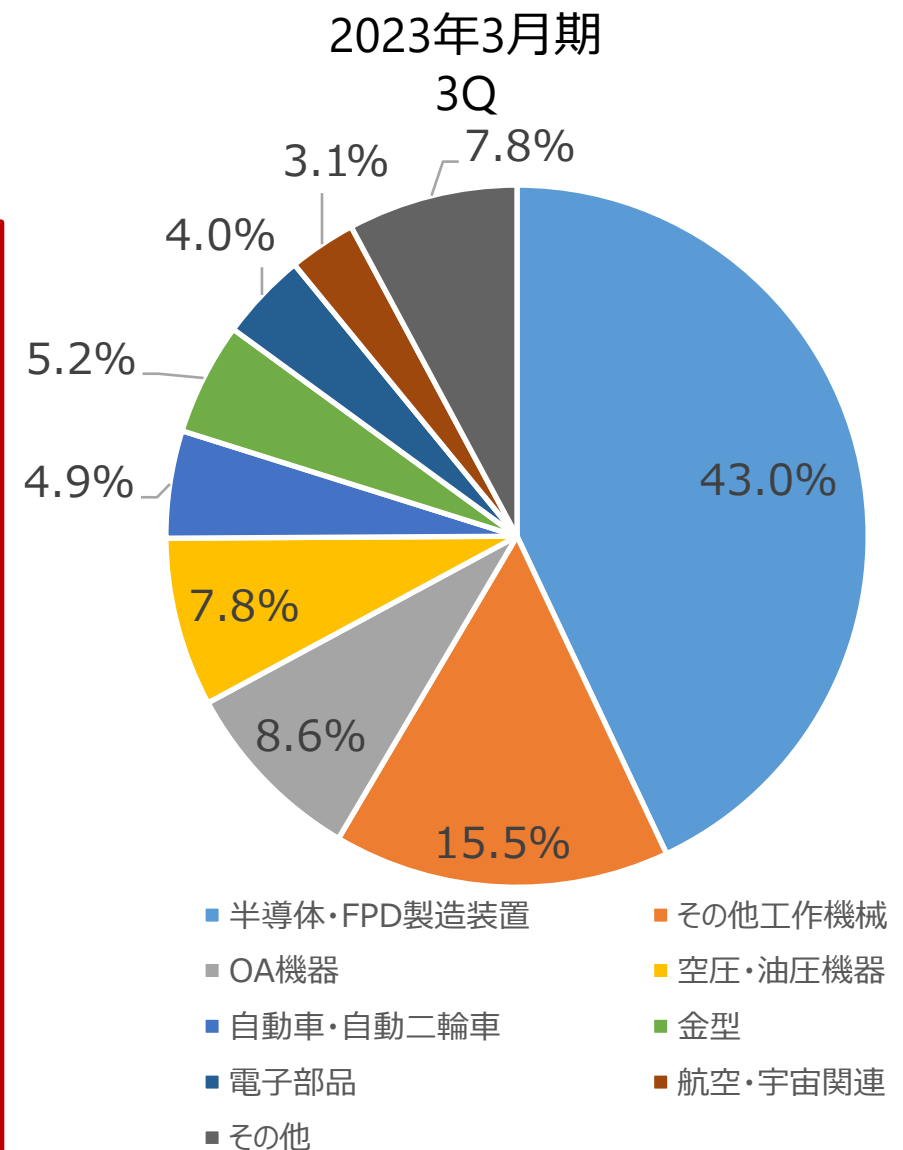
単位：百万円

	2022年 3月期 1Q	2022年 3月期 2Q	2022年 3月期 3Q	2022年 3月期 4Q	2023年 3月期 1Q	2023年 3月期 2Q	2023年 3月期 3Q	対前年 3Q期間比 増減率
連結売上高	12,636	13,182	14,655	14,966	16,062	15,712	15,603	6.5%
アルミニウム	8,242	8,654	9,563	9,905	10,694	10,249	10,076	5.4%
伸銅	1,780	1,766	2,033	1,919	2,106	2,010	2,134	4.9%
ステンレス	1,991	2,116	2,301	2,385	2,565	2,607	2,632	14.4%
その他	621	645	756	756	696	844	761	0.5%

業種別売上高構成比率（国内）

2023年3月期1Qから半導体・FPD製造装置向けの比率が減少
 その他工作機械や空圧・油圧機器、自動車・自動二輪車、金型の売上
 比率が増加

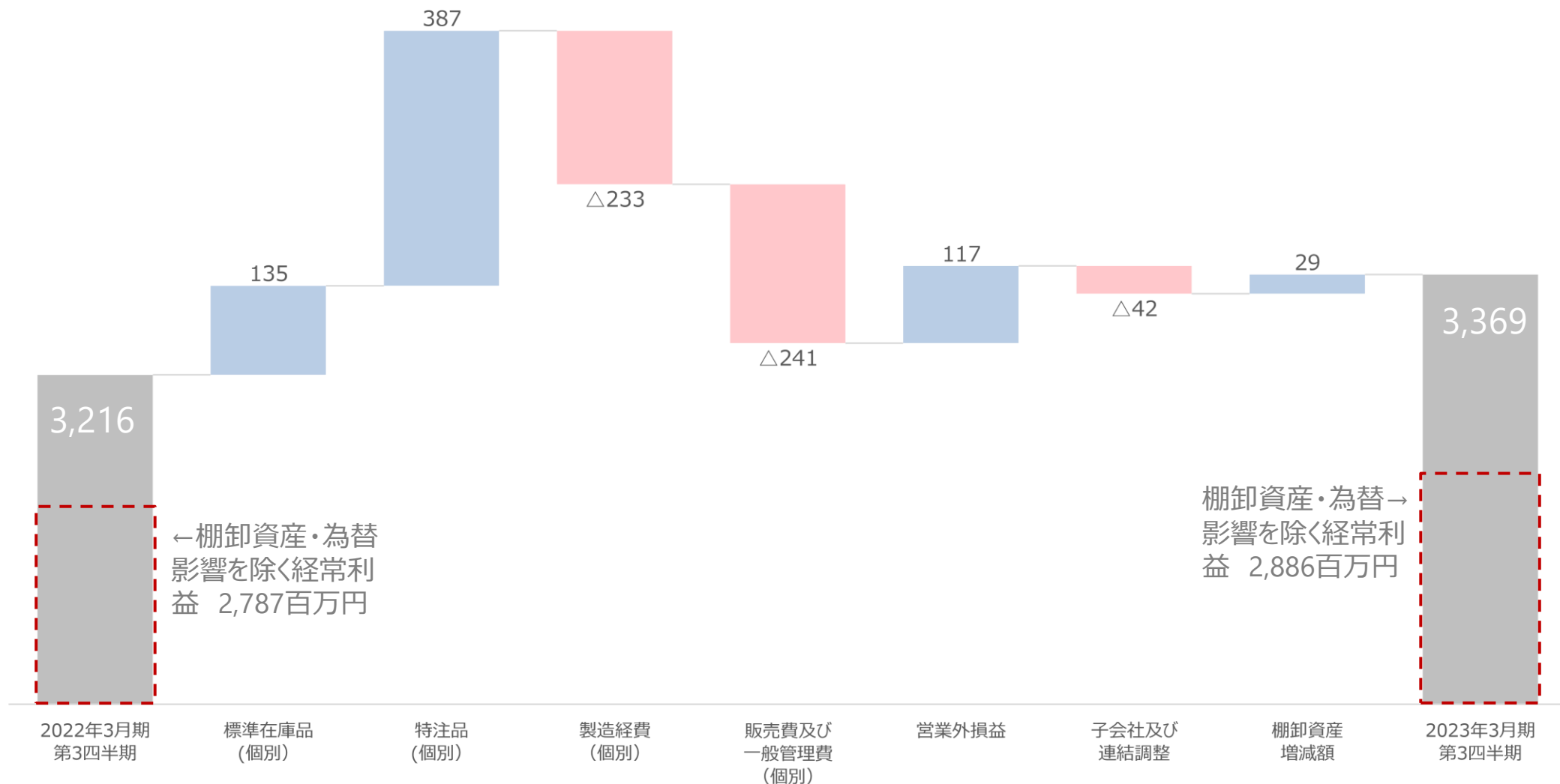
	2023年3月期 1Q	2023年3月期 2Q	2023年3月期 3Q
半導体・FPD 製造装置	47.2%	45.0%	43.0%
その他工作機械	15.0%	15.4%	15.5%
OA機器	8.6%	7.8%	8.6%
空圧・油圧機器	6.5%	6.9%	7.8%
自動車・ 自動二輪車	4.3%	4.9%	4.9%
金型	4.1%	4.7%	5.2%
電子部品	3.7%	4.1%	4.0%
航空・宇宙関連	3.1%	2.9%	3.1%
その他	7.5%	8.3%	7.8%



経常利益の前年同四半期差異要因

売上高増加を主因に前年同四半期比増益

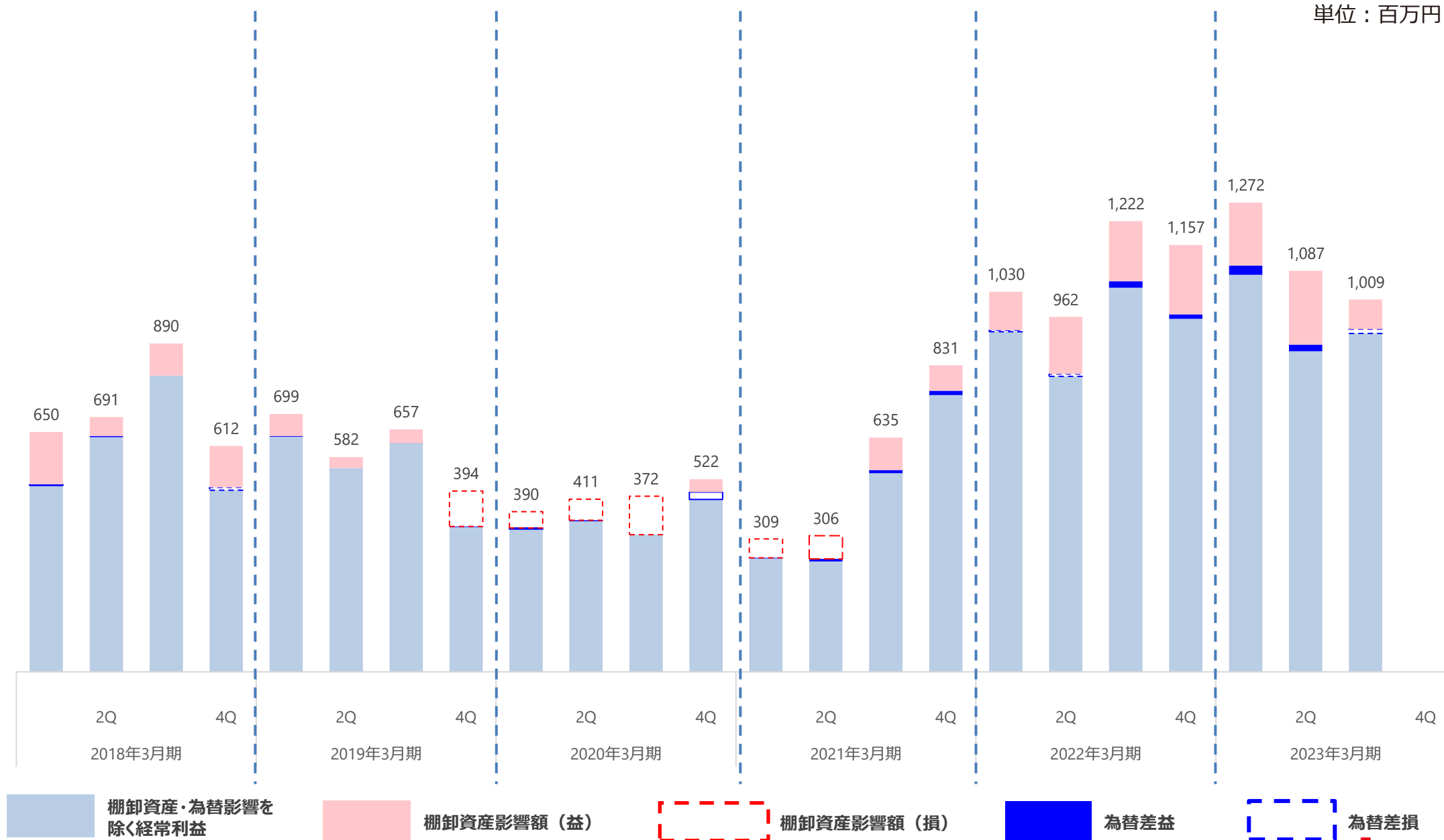
(単位 百万円)



経常利益の四半期毎推移

2021年3月期3Qより四半期毎に増益し、高水準の経常利益を維持
半導体製造装置業界の在庫調整等に伴い、2Q期間比減益

単位：百万円



貸借対照表 (BS)

<貸借対照表(前連結会計年度末比)>

単位：百万円

資産の部	2022年3月末	構成比率	2022年12月末	構成比率	増減
流動資産	33,615	80.5%	36,466	81.6%	2,850
現金及び預金	8,674	20.8%	7,743	17.3%	△931
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	17,010	40.7%	18,176	40.7%	1,165
棚卸資産	7,802	18.7%	10,151	22.7%	2,349
その他流動資産	127	0.3%	394	0.9%	266
固定資産	8,164	19.5%	8,212	18.4%	47
有形固定資産	6,097	14.6%	5,989	13.4%	△108
無形固定資産	509	1.2%	595	1.3%	86
投資その他の資産	1,557	3.7%	1,626	3.6%	69
資産合計	41,780	100.0%	44,678	100.0%	2,898
負債及び純資産の部	2022年3月末	構成比率	2022年12月末	構成比率	増減
流動負債	21,903	52.4%	23,890	53.5%	1,987
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	18,652	44.6%	21,749	48.7%	3,096
未払金・未払費用	1,023	2.4%	1,047	2.3%	23
未払法人税等	1,145	2.7%	401	0.9%	△744
その他流動負債	1,081	2.6%	692	1.5%	△388
固定負債	48	0.1%	56	0.1%	8
負債合計	21,951	52.5%	23,947	53.6%	1,995
純資産	19,829	47.5%	20,731	46.4%	902
負債純資産合計	41,780	100.0%	44,678	100.0%	2,898

<前連結会計年度増減>

流動資産+2,850百万円

- 納税・配当金支払による現預金減少
- 受取手形及び売掛金の増加
- 棚卸資産の増加

固定資産+47百万円

- 有形固定資産の減少
- 無形固定資産の増加
- 投資その他の資産の増加

流動負債+1,987百万円

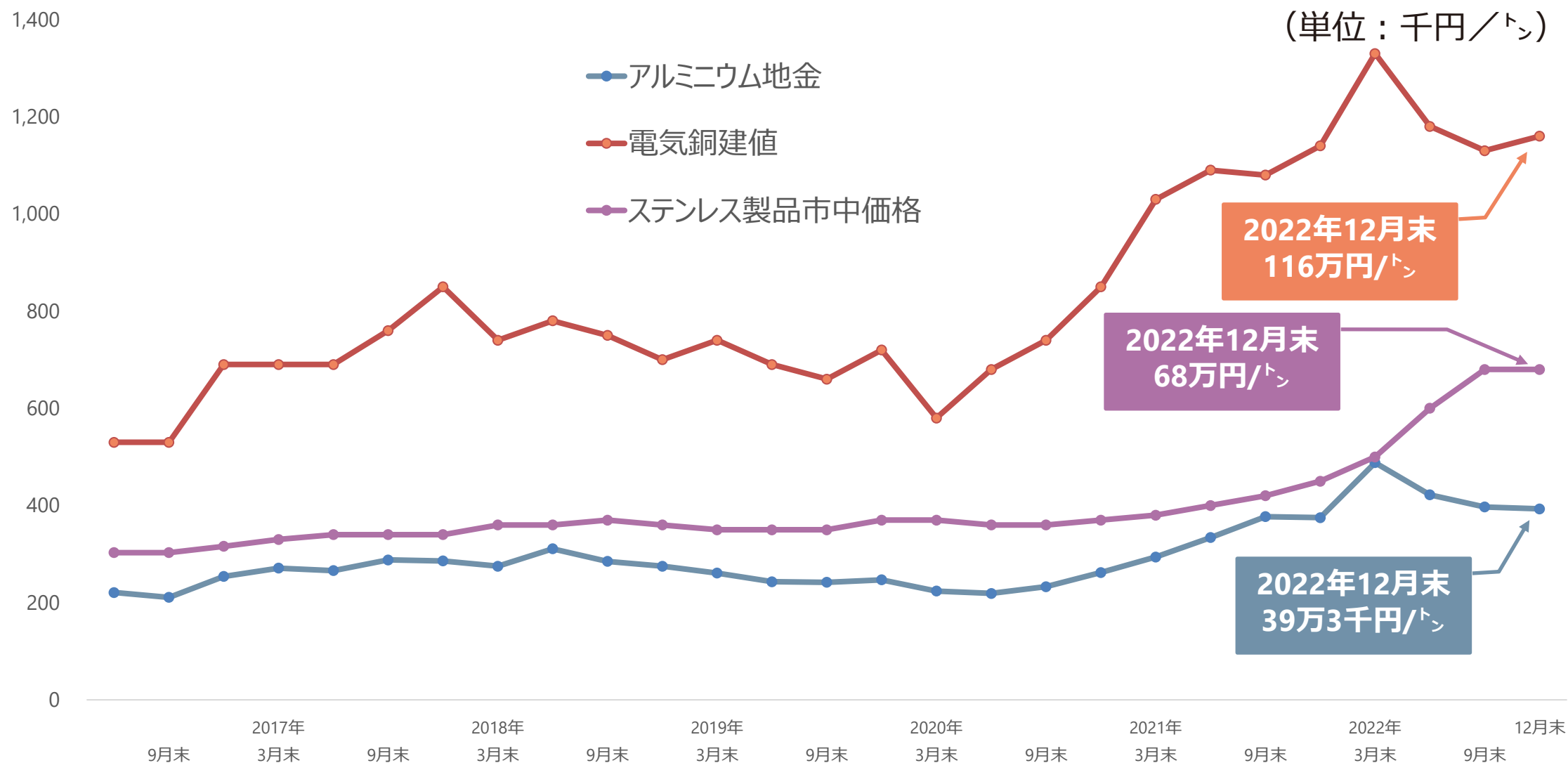
- 支払手形及び買掛金の増加
- 法人税支払（未払法人税等減少）

固定負債+8百万円

純資産+902百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

上昇を継続していたアルミニウムの原材料価格は2022年3月以降下落



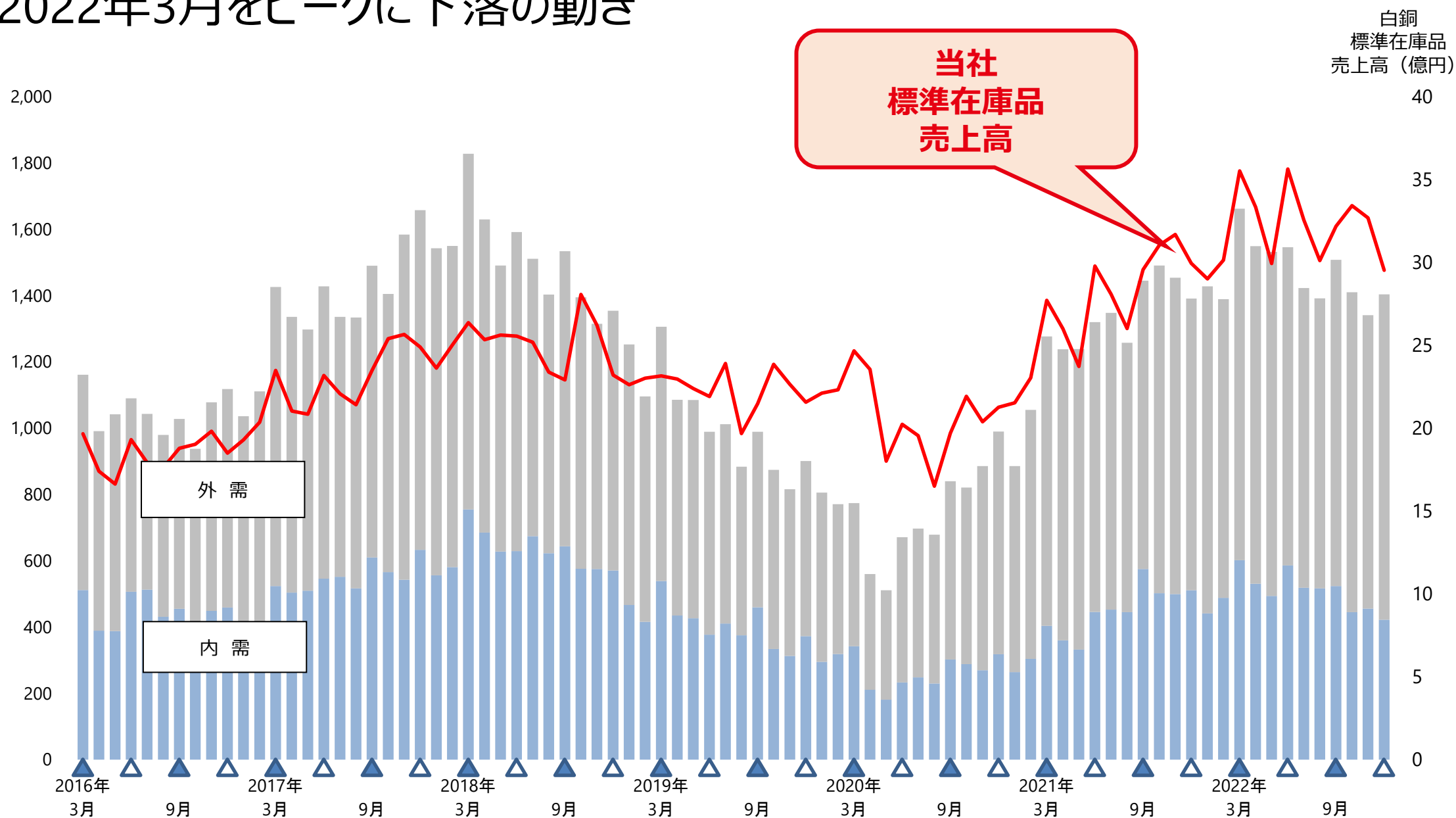
電気銅建値：JX金属による算出

ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値

アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2） 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

外需中心に好調継続していた工作機械受注額は
2022年3月をピークに下落の動き



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境（3） 半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

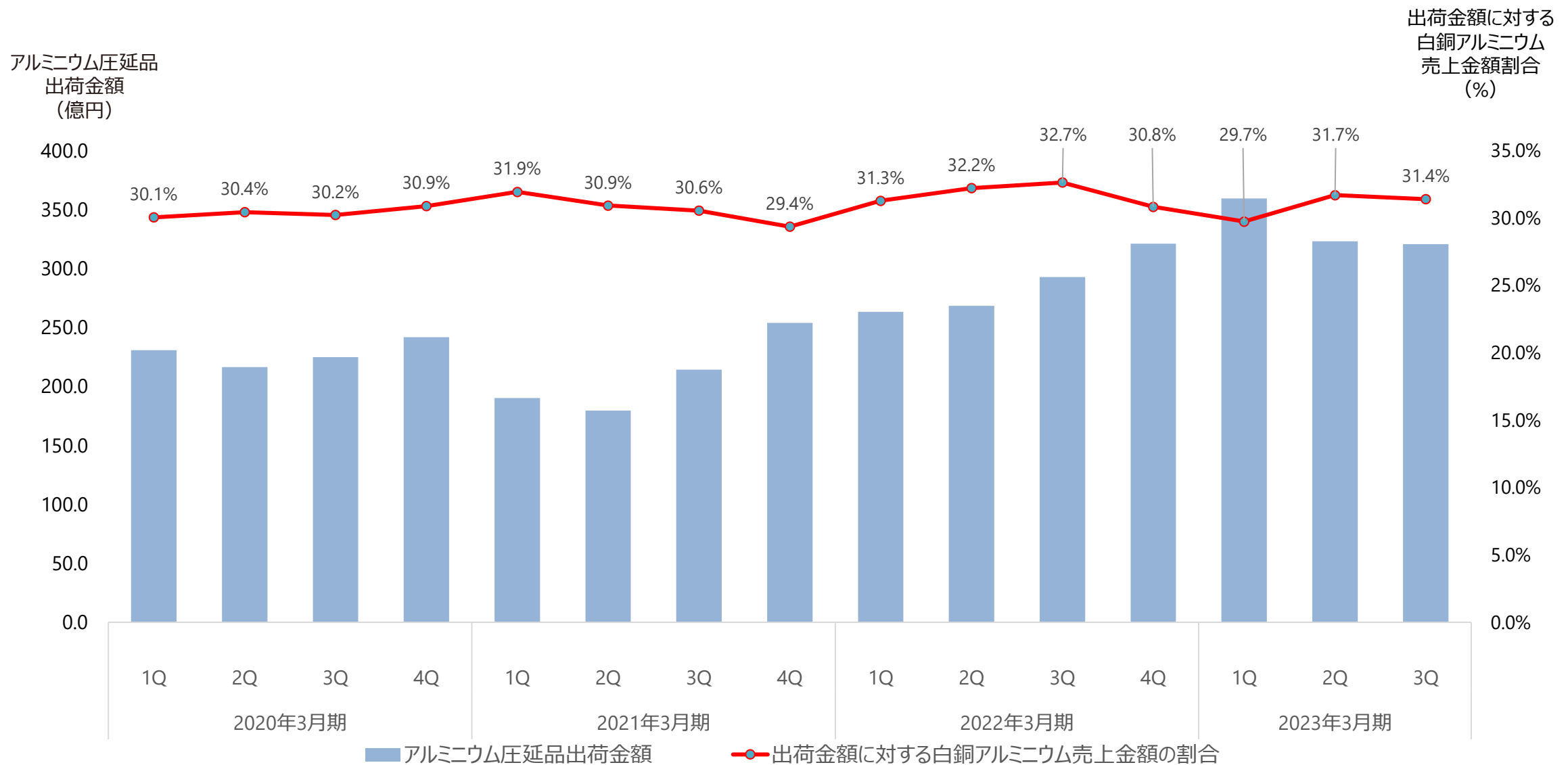
長期的には5G関連やデータセンター向けの需要拡大が見込まれるも
在庫調整局面が継続しており動向を注視中



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は
30%前後で推移



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円盤・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

業績予想

2023年3月期

通期連結業績予想

第3四半期時点での対予想進捗率は好調に推移

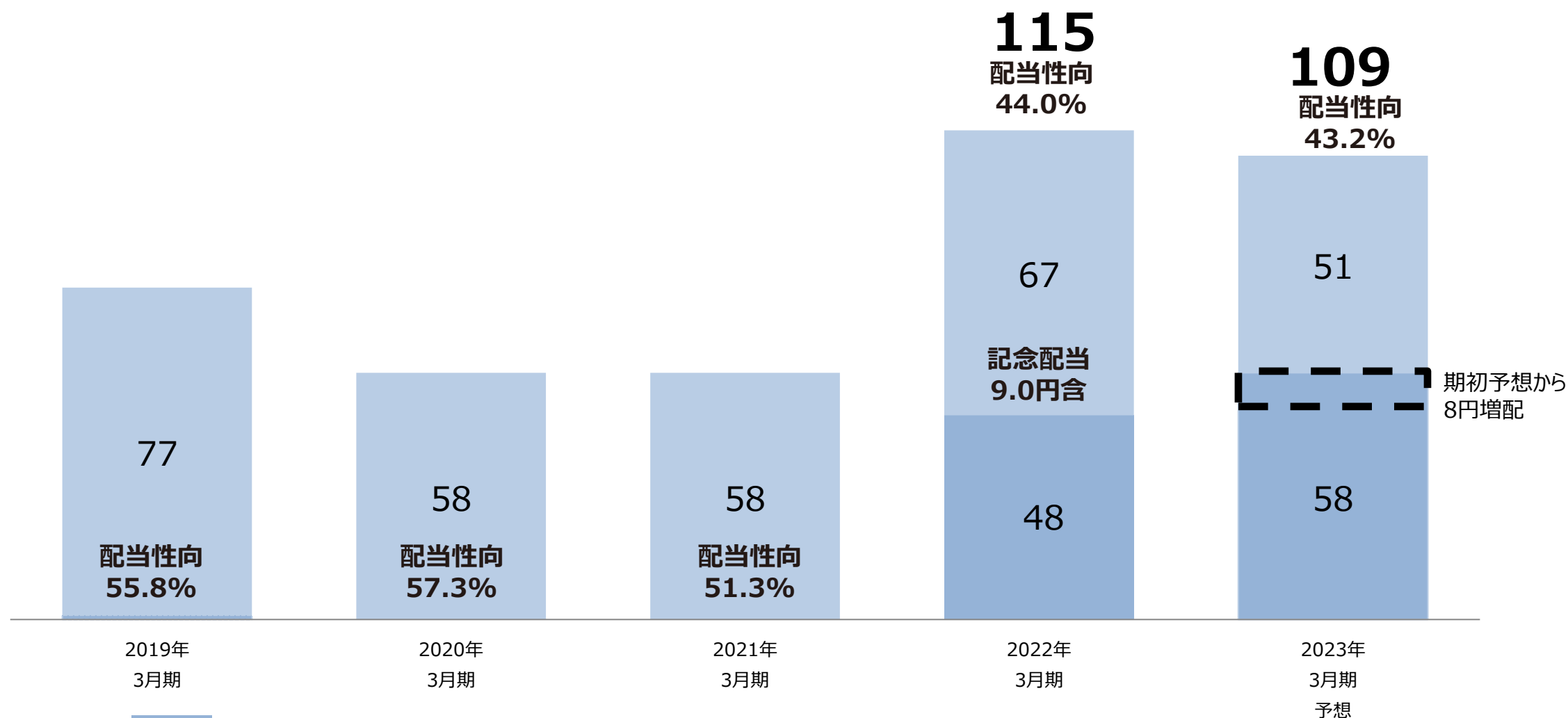
足元の経済環境等を勘案、通期連結業績予想値は期初予想値を据え置き

(百万円)	2022年3月期 実績	売上高比	2023年3月期 通期予想	売上高比	対前連結 会計年度 増減率 (差額)	通期予想に 対する 第3四半期 進捗率
売上高	55,441	-	62,100	-	12.0%	76.3%
営業利益	4,256	7.7%	3,970	6.4%	△6.7%	79.8%
経常利益	4,373	7.9%	4,080	6.6%	△6.7%	82.6%
棚卸資産影響額（△は損）	610	1.1%	449	0.7%	△26.4%	-
為替差損益（△は損）	20	0.0%	32	0.1%	59.4%	-
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	3,743	6.8%	3,599	5.8%	△3.8%	80.2%
親会社に帰属する 当期純利益	2,964	5.3%	2,860	4.6%	△3.5%	80.0%

配当予想 ～1株当たり配当金の推移～

上期は好調な業績を受け期初予想から8円増配を実施
下期は期初予想を据え置き、年間109円の予想

(単位：円)



※下段 ■ が第2四半期末、上段 ■ が期末配当を示す。

中期経営計画達成に向けた取り組み

経営目標・重要財務計画指標・株主還元を目指す水準

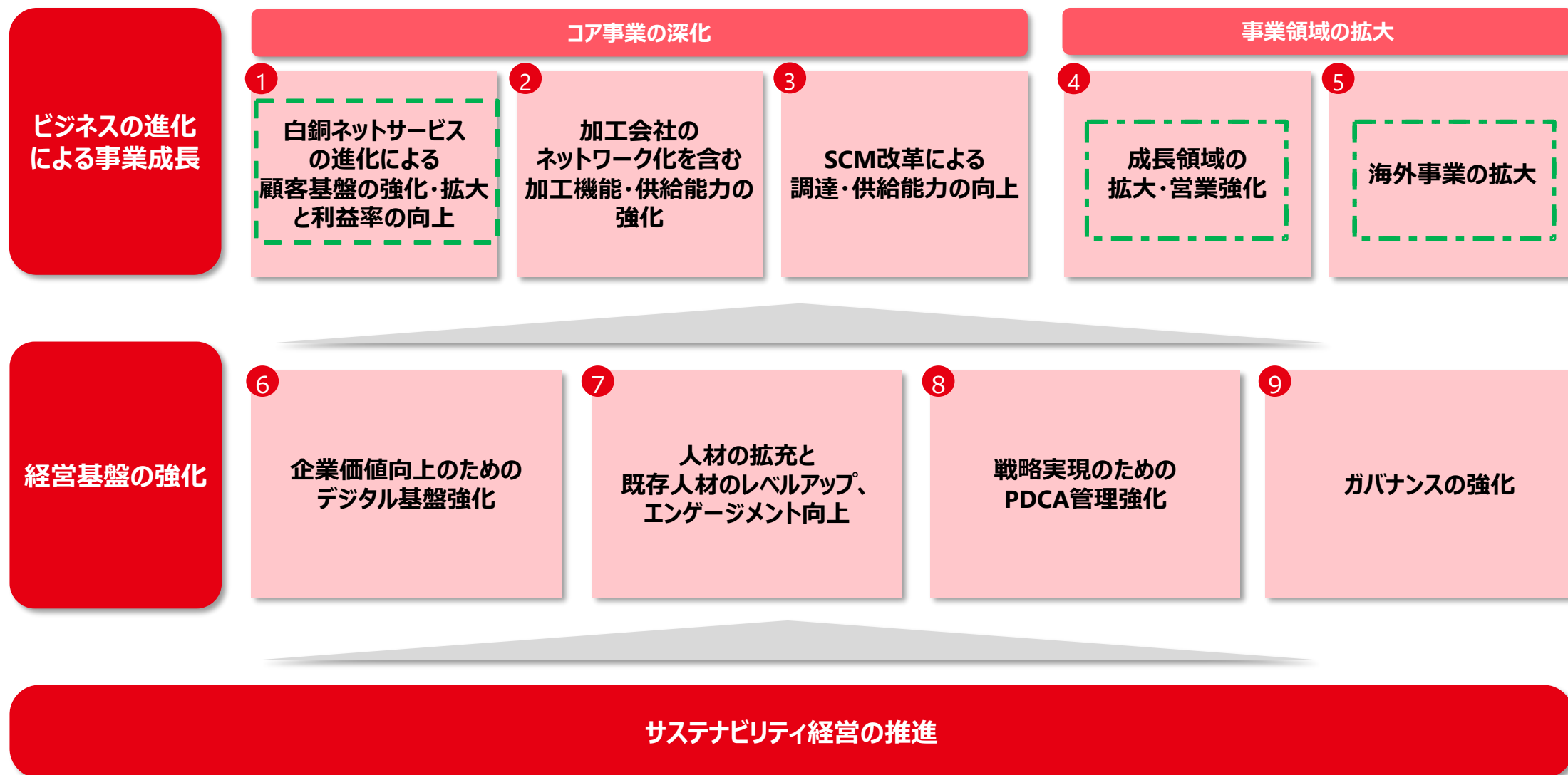
経営目標である売上高・経常利益の成長とともに、重要財務計画指標であるROICや営業CFの目標達成と株主還元を目指す

	2022年3月期 実績		2025年3月期 目標
経営目標	売上高	554 億円	718 億円
	経常利益	43 億円	54 億円
重要財務計画指標	ROIC	15 %	15 %
	営業CF	45 億円	47 億円
株主還元	配当性向 (記念配当3.4%を含む)	44.0 %	40.0 %

中期経営計画の重点戦略方針

ダントツ戦略をベースに、2025年3月期までにビジネス進化と経営基盤の強化及びサステナビリティ経営の推進を図る

経営課題と重点戦略方針



*詳細は2022年5月26日開示の「中期経営計画」をご参照ください

重点戦略ハイライト

**白銅ネットサービスの
進化**
(商品ラインナップの増強)

**成長領域の
拡大・営業強化**
(航空・宇宙領域の拡大)

海外事業の拡大
(Hakudo USA Inc.の設立)

2023年3月期第3四半期サマリー

白銅ネットサービス取扱アイテム数増加

- ・ ネット注文可能なアイテム数を増加。他社在庫品は約27,300（2022年3月末時点）から約40,600アイテム（12月末時点）と、約13,300アイテム増加

航空・宇宙領域の拡大

- ・ 三重県伊賀市に新拠点（伊賀倉庫）を設置予定
- ・ ウォータージェット切断機2基を滋賀工場から移管し、2023年4月から稼働を開始する予定

Hakudo USA Inc.の設立

- ・ 2022年12月14日に白銅の100%子会社「Hakudo USA Inc.」を設立
- ・ 米国新規市場への展開を強化

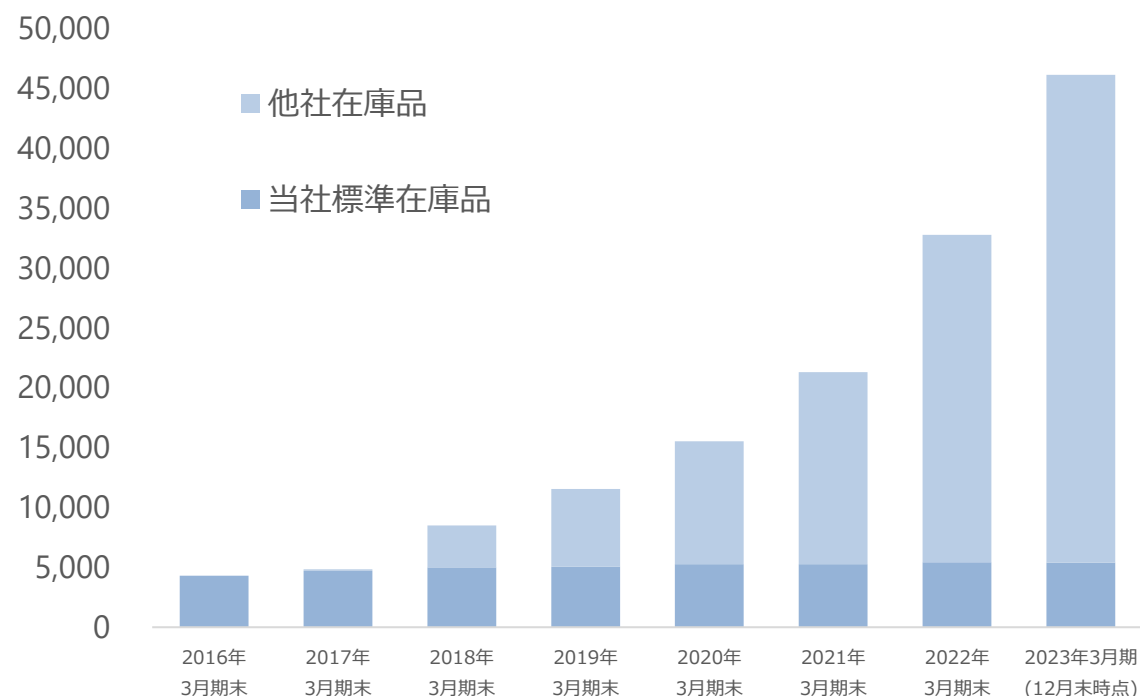
重点戦略方針（1）

（1）白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

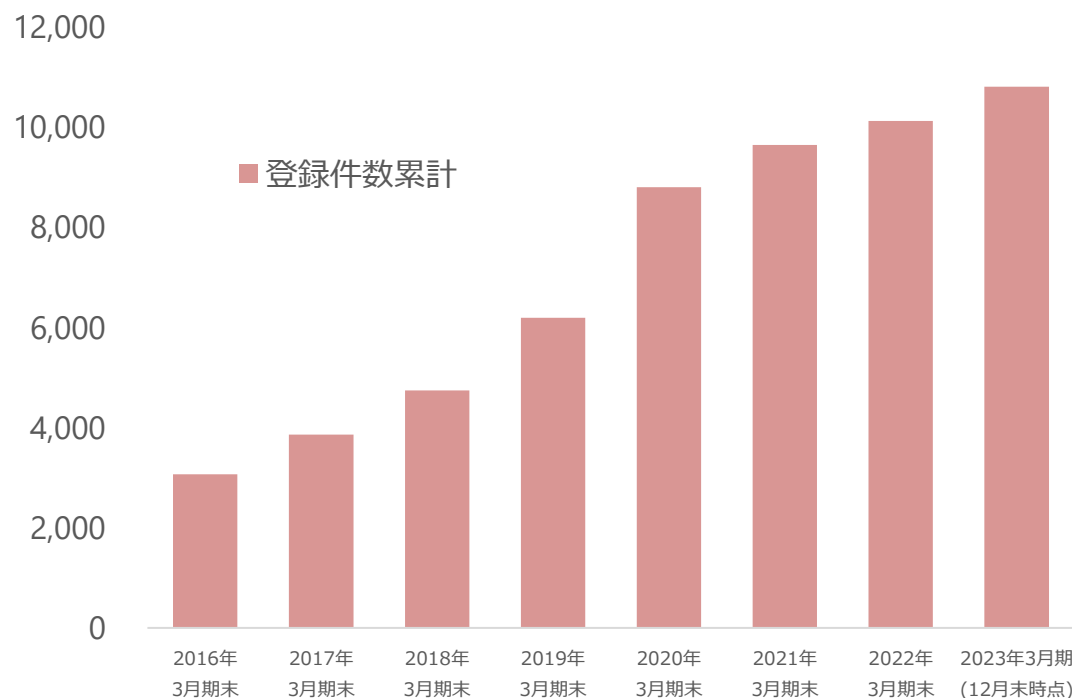
- ・他社在庫品を中心に取扱アイテムを拡充。当社標準在庫品と他社在庫品を合わせ、12月末時点で約46,000アイテムがご利用可能
- ・白銅ネットサービス登録件数は12月末時点で累計約10,800社に増加
流通業者のその先のお客様がご利用可能なCSネットサービスを展開



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



※CSネットサービスの登録件数を含む

あたらしい、を、素材から。



重点戦略方針（2）

（2）成長領域の拡大・営業強化

◆ 航空・宇宙領域

- ・ 三重県伊賀市に新拠点（伊賀倉庫）設置。ウォータージェット切断機2基を滋賀工場から移管予定（2023年4月稼働開始予定）

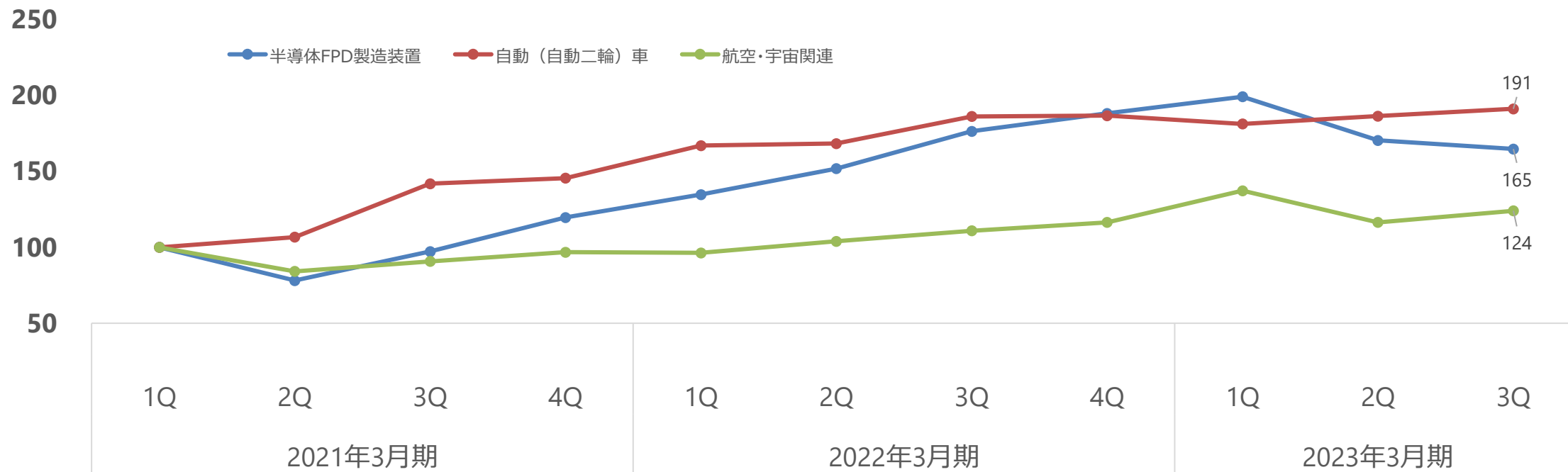
◆ 半導体領域

- ・ 半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築

◆ 自動車領域

- ・ 3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得
- ・ 獲得した新規顧客に対し、他の商材の拡販を展開

【成長領域の売上高指数の四半期推移】



※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

重点戦略方針（3）

（3）海外事業の拡大

◆ Hakudo USA Inc. 設立

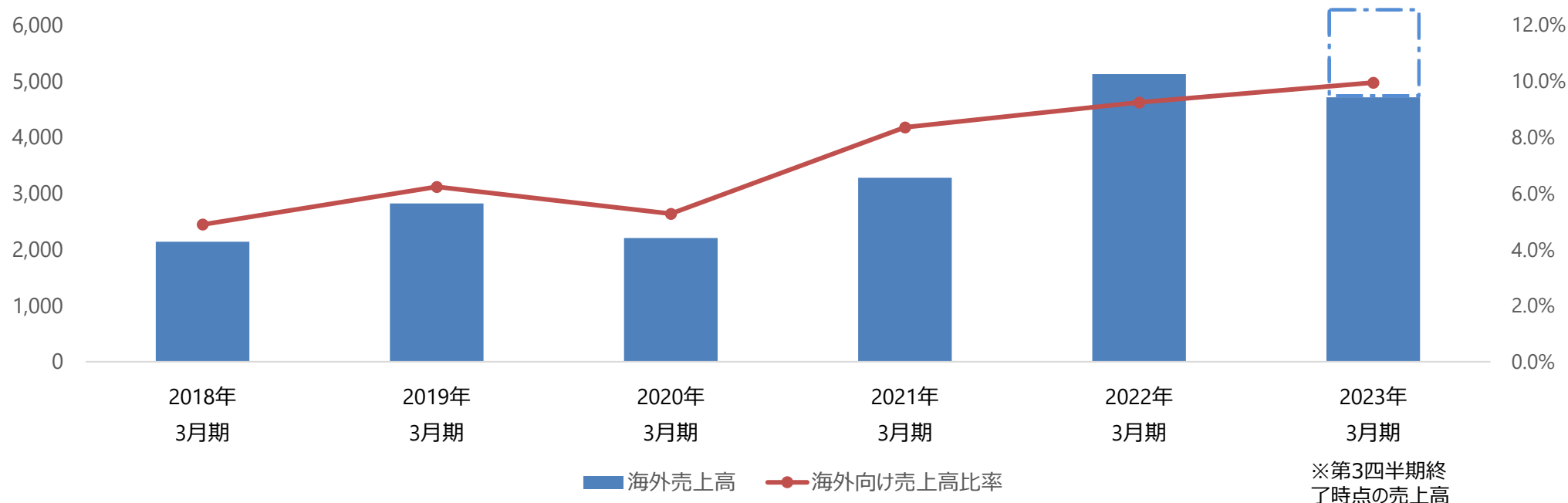
- 2022年12月14日に米国ロサンゼルス市に白銅100%子会社を設立
- 米国での投資事業及び非鉄金属の輸入卸売事業の拡販を予定

◆ 白銅ECパッケージ運用

- Hakudo Thailandが白銅ECパッケージの運用開始

【海外事業の売上高と海外売上高比率の推移】

（単位：百万円）



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

サステナビリティ経営の推進（1/2）

ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の取組テーマや活動目標に対する取組状況を記載
取組状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2023年3月期 第3四半期取組状況
1.環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2020年度比で①2030年度までに42%削減、②2050年度までにカーボンニュートラル達成に向け、2025年3月までの具体的な削減策に着手する	● CO ₂ 排出量	✓ 太陽光発電やカーボンクレジット購入などによるCO ₂ 排出量削減の具体的施策を検討
	製造効率の改善	配送効率改善・産業廃棄物削減・スクラップ率低下などにより、天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を実現する	● 消費電力量 ● 運賃逓減率 ● 廃棄物金額 ※いずれも出荷重量当たりの数値	✓ 運送会社向けにサステナビリティの取組状況のアンケート調査を実施 ✓ EV車の導入によるCO ₂ 排出量削減施策を検討
	オフィスペーパーレス化の推進	資源の無駄を排除し、リサイクル化を行うことで、コスト削減を行うとともに、森林保護等自然環境保護に貢献する	● オフィス印刷費用	✓ 取引先のWEB請求書切り替えキャンペーン第2弾を実施
2.責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	環境負荷の少ない商品（ECO商品等）を安定供給することで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● ECO商品販売重量	✓ 拡販に向け積極的な営業活動を実施
	グリーン調達の促進	白銅独自のグリーン調達ガイドラインを、サプライヤーに遵守協力頂くことで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数 ● グリーン調達率	✓ 各取引先と順次覚書の取り交わしを実施
	サプライヤーとの関係強化	サプライヤーと協力し、CO ₂ 削減に配慮した施策を行うことで、サプライチェーン全体におけるCO ₂ 削減を促進することで社会貢献を行う	● グリーンアルミ調達先発掘 ● リサイクルアルミ調達先発掘	✓ グリーンアルミの調達先を選定し、交渉開始
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を行うことで社会貢献する	● 自社における人権ポリシーの策定	✓ 人権デューデリジェンス実施に向け、外部に見積りを依頼

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI（現状は具体的数値は非開示）

サステナビリティ経営の推進 (2/2)

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2023年3月期 第3四半期取組状況
3.社会への取り組み	次世代への貢献	日本のものづくりの発展や人材育成を支援することで、次世代の技術の発展や人材育成に貢献する	● 産学協働案件数	✓ 再生可能エネルギー関連の研究開発を行う大学と連携し、当社国内工場への試作機設置を検討
	社会への貢献	持続可能な社会への貢献を行うことで、従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業になる	● 地域社会、団体への寄付額	✓ 寄付型自動販売機を設置 ✓ ものづくり関連のコンテストへの協賛を検討
4.人材への投資	従業員満足度向上	従業員満足度の向上により、従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションを高め、社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力を高める。	● 離職率 ● 有給取得率	✓ 育児者に対する福利厚生拡充を検討
	ダイバーシティの促進	多様な人材を登用、活用することで組織の生産性や競争力を高める	● 女性従業員比率（管理職・従業員）	✓ 障がい者雇用促進のための施策を検討 ✓ モニタリングすべき人的資本指標を協議
	社員教育の拡充	業務上で必要な知識・スキルの提供。また知識やスキルを身に着ける為の機会を提供する。	● 一人当たり教育費用 ● 研修受講比率	✓ 正社員を対象に年間教育計画説明会を開催
5.コーポレートガバナンス	違反ゼロ	ゼロ・トーランスを目指し、教育を実施する	● コンプライアンス違反ゼロ	✓ コンプライアンス違反ゼロ運動を展開中
	事業リスク・災害への対応強化	事業リスク評価とBCP見直しを徹底。また、災害が発生しても訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みを作る	● リスク評価ポイント	✓ 避難訓練内容の実施を本社従業員に周知

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI（現状は具体的数値は非開示）

サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、スポーツ振興や自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています。

スピードスケート



2022年4月にスケート部を創設しました。スピードスケートナショナル強化選手である伊藤貴裕選手（写真右）、土屋陸選手（写真左）の2名が所属しています。

白銅は、2026年ミラノ・コルティナオリンピックでのメダル獲得を目指す両選手の活躍を応援するとともに、スポーツ振興にも貢献しています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。2022年9月現在、4名の従業員が在籍し、葉物野菜をメインに約40種類を栽培しています。

LEDを利用した屋内栽培のため室内温度が一定で、従業員の安全と健康が保たれています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配布しています。

スーパーミニマムチャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材も使用された2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が本気で制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ対戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信しようというプロジェクトです。

白銅は「下町ボブスレーネットワークプロジェクト」にスポンサーとして協賛しております。

※ 2022年12月時点の情報を元に作成

■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。

以下のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！



■ 本資料における注意事項

この資料には、2023年2月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課

メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp

ホームページ：www.hakudo.co.jp